

第 15 回代かき濁水対策を進める WG 要旨

日 時： 令和 4 年 11 月 22 日（火）13：30～15：00

場 所： 香美市立中央公民館 2 階会議室

参加者数： 14 名

【議題】

1 2022 年春の濁度調査結果について（報告）

事務局より、濁度調査結果を報告。

【主な意見】

- 3 月初旬のせせらぎ水路の濁度が高かったことは、川干の前に数枚の田（1 反ほど）が地下水をポンプアップして代かきをしていたことが原因かもしれない。3 月はアユの遡上の時期であり、農業濁水の影響は大きい。啓発の方法が課題である。
- 3 月初旬のせせらぎ水路以外は濁度の平均が例年に比べ低かった。春先の渇水の影響で節水を心がけたことにより、浅水代かきとなったことが原因ではないか。
- 水田からショウガ栽培への転換が増えてきている影響はないか。ショウガは価格低迷状況ではあるが、栽培面積が増えてきている印象がある。栽培面積のデータを取得してはどうか。
なお、物部川流域ではショウガ栽培による濁水の影響はないと思われる。
- 濁度とは直接影響はないが、台風時期には水路に流木や除草した草が多く流れてきている。啓発を行うことが大切。

2 2023 年作付けに向けての普及啓発方法について（協議）

事務局より、2023 年作付けに向けての普及啓発方法（案）を説明。

【主な意見】

- 土地改良区の広報でも啓発してくれている。土地改良区へも確認してほしい。
- 啓発はやり続けることが大切。地道に続けるべきである。
- 浅水代かきの割合のデータは 5 年ごとに取得する予定。令和 6 年度にアンケート調査を行うため、来年度の濁水 WG でアンケート手法等について協議したい。
- JA の稲作部会に入っていない人への啓発方法が課題。また、兼業農家はデータとして表に出にくく、どのように把握するか課題である。

【検討結果】

- 広報紙での啓発は県と流域 3 市で継続して掲載する。
- 農家向けの啓発チラシも JA 土長地区、JA 香美地区で継続して配布する。
- JA 土長地区で実施している浅水代かき実践会は今年度も実施予定。

3 四万十川での農業濁水軽減に向けた実証実験について（情報提供）

事務局より、今年度実施した実証実験について説明。

【主な意見】

- 四万十川流域、特に四万十町では町独自で補助等を行い、川を流域の財産として対策に取り組んでいる。
- 農業濁水対策は、長い取組の中で少しずつ前へ進んでいる。流域思考といった視点が重要。
- 農業濁水は昔はあまり問題にはならなかったが、香宗川の濁水等、流域全体で考えていかなければいけない。香南市の環境基本計画にも農業濁水について記載している。農家の皆さんへ協力してくださいとの姿勢で進めるべきである。
- 四万十川以外の県内の河川で農業濁水が問題となっている場所はあるか。
→仁淀川流域では昔から製紙業が盛んであったこともあり、濁水軽減について上流域の意識が高い。和紙によって流域思考があった。

4 その他意見

- 今年の渇水のように、水が減ると住民も意識する。実態を知ることが重要。
- 農業濁水をきっかけに物部川が抱える川や山の問題を気づいてくれればと思う。
- 物部川の濁水を根本的にどうするか、問題提起を行うことも必要。